

集中授業による「生きる力」の変化についてV

— 2018-19、2019-20 集中スキー IKR 調査報告 —

桂 豊*
曾我部 晋 哉*
吉 本 忠 弘*
鵜 木 千加子*

The development of IKIRU CHIKARA by a ski intensive course in winter 2018-2019,2019-2020

Yutaka KATSURA, Akitoshi SOGABE,
Tadahiro YOSHIMOTO, Chikako IKARUGI

キーワード：集中スキー, IKR 調査, 生きる力

【はじめに】

本学において開講している集中スキーについて、これまでに2011-12シーズン、2012-13シーズン、2013-14シーズン、2014-15シーズン、2015-16シーズン、2016-17シーズン、2017-18シーズンについてIKR調査を実施し、集中スキーによる4泊5日の野外での体験が受講生達（大学生）に与える影響を調査することを目的にIKR調査を実施した。

今回は、2018-19シーズン（以下2018年度）、2019-20シーズン（以下2019年度）について報告する。

【方法】

1 日程・場所・学生数・講師数・調査実施日

表1および表2は2018年度、表3および表4は2019年度の集中スキー概要と授業の日程である。

JR大阪駅前に集合、その後貸切バスで移動、現地到着までにIKR事前調査を実施、最終日閉講式後にIKR事後調査を実施した。

2 生きる力の定義（図1）

本調査では、これまでの報告同様、平成20年3月に改定された「学習指導要領」において「生きる力」の理念は変わらず継承されることが明確にされたことを受け、「生きる力」とは、「①確かな学力（基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力）であり、②豊かな人間性（自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性と③健康・体力（たくましく生きるための健康や体力）とした。

図1は「生きる力」、図2は「生きる力」IKR調査回答用紙、図3はIKR調査の上位尺度、中位尺度、下位尺度である。表5は各尺度の調査項目を示した。

* 甲南大学 共通教育センター

表1 2018 集中スキー概要

2018 集中スキー	
日程	2019年2月11日～15日（4泊5日）
場所	Mt. 乗鞍
宿泊先	山水館信濃
学生数&講師数	学生数 82名（男 40名 女 42名） 講師数 10名（本部・個別対応含む）
IKR 調査実施日	Pre.: 2/11 実習開始前 Pos.: 2/15 閉講式終了後

表2 2018 授業日程

2018集中スキータイムスケジュール					
時間	2月10日	2月11日	2月12日	2月13日	2月14日
7:00		起床	起床	起床	起床
7:45	集合(受付)	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00	西梅田バス暫定駐車場				
8:15	出発	医務の時間	医務の時間	医務の時間	医務の時間
9:00		スキー実習	スキー実習	スキー実習	荷物移動
10:30					スキー実習
11:00					上級班フォーメーション
					レンタル返却
					閉講式
					※そのまま昼食
12:00	昼食(自由食)	昼食	昼食	昼食	着替え
12:30					出発準備
					バス配車
					出発
午後		スキー実習	スキー実習	スキー実習	
14:45	ホテル到着(予定)				お土産買い物
	レンタル装着後、				
	そのまま実習へ				
16:30頃	実習終了	実習終了	実習終了	実習終了	<松本IC・長野道・中央
	入浴	入浴	入浴	入浴	道・名神高速・阪神高速>
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	トイレ休憩
	(終了後閉講式)				
	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	
19:45					
20:00	ミーティング(準備が出来次第)※2回交代	ミーティング	ミーティング	ミーティング	帰着(予定)大阪駅周辺
	(①20:00～②20:45～)				解散
		入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	
22:45		点呼	点呼	点呼	
23:00		消灯	消灯	消灯	

表3 2019 集中スキー概要

2019 集中スキー	
日程	2020年2月10日～14日（4泊5日）
場所	Mt. 乗鞍
宿泊先	山水館信濃
学生数&講師数	学生数 91名（男 47名 女 44名） 講師数 10名（本部・個別対応含む）
IKR 調査実施日	Pre.: 2/10 実習開始前 Pos.: 2/14 閉講式終了後

表4 2019 授業日程

2019集中スキータイムスケジュール					
時間	2月11日	2月12日	2月13日	2月14日	2月15日
7:00		起床	起床	起床	起床
		朝食	朝食	朝食	朝食
7:45	集合(受付)				
8:00	出発	医務の時間	医務の時間	医務の時間	医務の時間
8:15					荷物移動
9:00		スキー実習	スキー実習	スキー実習	スキー実習
10:30					上級班フォーメーション
11:00					レンタル返却
					閉講式
					※そのまま昼食
12:00	昼食(自由食)	昼食	昼食	昼食	着替え
12:30					出発準備
					バス配車
					出発
午後		スキー実習	スキー実習	スキー実習	
14:45	ホテル到着(予定)				お土産買い物
	レンタル装着後、				
	そのまま実習へ				
16:30頃	実習終了	実習終了	実習終了	実習終了	<松本IC・長野道・中央
	入浴	入浴	入浴	入浴	道・名神高速・阪神高速>
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	トイレ休憩
	(終了後閉講式)				
	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	
19:45					
20:00	ミーティング(準備が出来次第)※2回交代	ミーティング	ミーティング	ミーティング	帰着(予定)大阪駅周辺
	(①20:00～②20:45～)				解散
		入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	
22:45		点呼	点呼	点呼	
23:00		消灯	消灯	消灯	

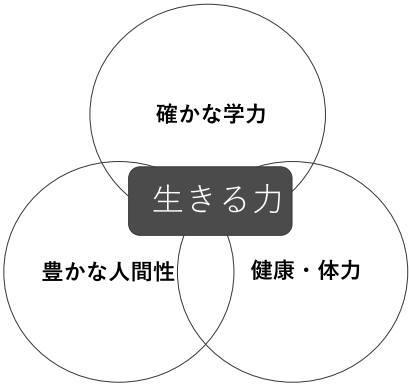


図1 生きる力の定義

氏名

班

男

女

・下のそれぞれの質問について、「とてもよくあてはまる」～「全くあてはまらない」の6段階で答えて下さい。

・自分がもっともあてはまると思う番号に、○印を付けてください。

・考えすぎると答えられなくなることがあります。考えすぎず、どんどん答えて下さい。

	とてもよくあてはまる		⇄	全くあてはまらない	
1 嫌なことは嫌とはっきり言える	1	2	3	4	5 6
2 人のために何かをしてあげるのが好きだ	1	2	3	4	5 6
3 自分で問題点や課題を見つけることができる	1	2	3	4	5 6
4 誰にでも話しかけることができる	1	2	3	4	5 6
5 グループをうまくまとめることができる	1	2	3	4	5 6
6 人の話をきちんと聞くことができる	1	2	3	4	5 6
7 「ありがとう」、「ごめんなさい」がうまく言えない	1	2	3	4	5 6
8 前向きに物事を考えられる	1	2	3	4	5 6
9 していいこと、してはいけないことの判断ができる	1	2	3	4	5 6
10 人の悪口をよく言う	1	2	3	4	5 6
11 洗濯機がなくても、手で洗濯できる	1	2	3	4	5 6
12 小さな失敗を恐れない	1	2	3	4	5 6
13 相手の立場になって考えることができる	1	2	3	4	5 6
14 わからないことは自分で調べる	1	2	3	4	5 6
15 小さなことでよくよする	1	2	3	4	5 6
16 草花の世話はあまり好きではない	1	2	3	4	5 6
17 その場にふさわしい行動ができる	1	2	3	4	5 6
18 生きていて良かったと思っている	1	2	3	4	5 6
19 自分の力で、問題を解決しようとする	1	2	3	4	5 6
20 嫌がらずによく働く	1	2	3	4	5 6
21 体を動かしても、疲れない	1	2	3	4	5 6
22 自分勝手なわがままを言わない	1	2	3	4	5 6
23 新しい物事に、すぐに慣れることができない	1	2	3	4	5 6
24 自分と違う意見や考えを、受け入れることができる	1	2	3	4	5 6
25 先を見通して、自分で計画が立てられる	1	2	3	4	5 6
26 いつも笑顔で過ごしている	1	2	3	4	5 6
27 暗い林の中の道を、ひとりで歩くことができる	1	2	3	4	5 6
28 病気にかなりやすい	1	2	3	4	5 6
29 誰にでも、挨拶ができる	1	2	3	4	5 6
30 未来への夢と希望をもっていない	1	2	3	4	5 6
31 決まり、ルールを守ることができる	1	2	3	4	5 6
32 とても大きな声を出すことができる	1	2	3	4	5 6
33 身の回りの片付けや掃除ができる	1	2	3	4	5 6
34 少しくらい血が出てても平気である	1	2	3	4	5 6
35 他の人の失敗を許すことができない	1	2	3	4	5 6
36 様々な情報から必要なものを選べる	1	2	3	4	5 6
37 失敗しても、立ち直るのがはやい	1	2	3	4	5 6
38 仲間とうまく付き合えない	1	2	3	4	5 6
39 自分でできることは自分でやる	1	2	3	4	5 6
40 暑さや寒さに、負けない	1	2	3	4	5 6

<裏面に続きます>

図2 IKR 調査回答用紙①

	とてもよくあてはまる			⇄	全くあてはまらない		
41 ナイフなどの刃 物を、上手に使える	1	2	3	4	5	6	
42 他人にあまり親切でない	1	2	3	4	5	6	
43 長い距離を歩くことができる	1	2	3	4	5	6	
44 お金や 物の無駄使いをしない	1	2	3	4	5	6	
45 自由な発想ができる	1	2	3	4	5	6	
46 季節の変化を感じることができる	1	2	3	4	5	6	
47 自分のいいところ、悪いところをよく知らない	1	2	3	4	5	6	
48 色々な動物や虫を、手で触ることができない	1	2	3	4	5	6	
49 誰とも仲良くできる	1	2	3	4	5	6	
50 根気がない	1	2	3	4	5	6	
51 自分のことが大好きである	1	2	3	4	5	6	
52 自分からすすんで何でもやる	1	2	3	4	5	6	
53 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	1	2	3	4	5	6	
54 食べ物の好き嫌いが多い	1	2	3	4	5	6	
55 腹が立っても、おさえることができる	1	2	3	4	5	6	
56 花や風景などの美しいものに、感動できる	1	2	3	4	5	6	
57 いろいろなことに興味がある	1	2	3	4	5	6	
58 やりたいことが、たくさんある	1	2	3	4	5	6	
59 多くの人に好かれている	1	2	3	4	5	6	
60 今の自分は、幸せだと思う	1	2	3	4	5	6	
61 読み書きがしっかりできる	1	2	3	4	5	6	
62 様々なことを実際に体験している	1	2	3	4	5	6	
63 生き物を、とても大切にする	1	2	3	4	5	6	
64 人の心の読みがわかる	1	2	3	4	5	6	
65 大人や年上の人と、うまく付き合える	1	2	3	4	5	6	
66 自然の中での出来事に興味がある	1	2	3	4	5	6	
67 とても暑い怪我をしても我慢できる	1	2	3	4	5	6	
68 自分で食事が作れる	1	2	3	4	5	6	
69 部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである	1	2	3	4	5	6	
70 早寝早起きである	1	2	3	4	5	6	

ご協力有難うございました。

図2 IKR 調査回答用紙②

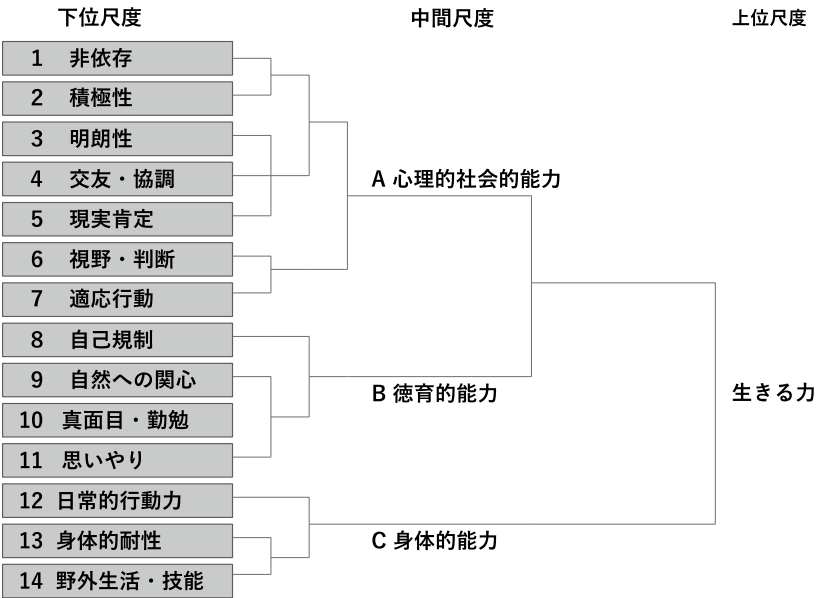


図3 「生きる力」の上位尺度、中位尺度、下位尺度

表5 上位尺度、中位尺度、
下位尺度の調査項目

上位尺度	中位尺度	下位尺度	調査項目
	心理的社会的能力	1 非依存	11いやなことはいやとはっきり言える
			15小さな失敗を恐れない
			29新しいものにすぐに慣れることができない
			43さまざまなことを実際に体験している
			57自由な発想ができる
		2 積極性	11前向きに物事を考えられる
			25自分の力で問題を解決しようとする
			39未来への夢と希望はあまりもっていない
			53いろいろなことに興味がある
			67自分から進んで何でもやる
		3 明朗性	5誰にでも話しかけることができる
			19小さなことでよくよする
			33いつも笑顔で過ごしている
			47失敗しても立ち直るのが早い
			61やりたいことがたくさんある
		4 交友・協調	7グループをうまくまとめることができる
			21おとなや年上の人とうまくつきあえる
			35多くの人に好かれている
			49仲間とうまくつきあえない
			63誰とも仲良くできる
		5 現実肯定	9「ありがとう」「ごめんなさい」がうまく言えない
			23生きてよかったと思っている
			37誰にでも挨拶ができる
			51今の自分は幸せだと思う
			65自分のことが大好きである
		6 視野・判断	3自分で問題点や課題を見つけることができる
			17わからないことは自分で調べる
			31先を見通して自分で計画が立てられる
			45様々な情報から必要なものを選べる
			59自分のいいところ、わるいところをよしらない
		7 適応行動	8人の話をきちんと聞くことができる
			22その場にあふさわしい行動ができる
			36読み書きがしっかりできる
			50自分でできることは自分でやる
「生きる力」			64根気がない
	徳育的能力	8 自己規制	14人の悪口をよいう
			28自分勝手な、わがままを言わない
			42身の回りの片付けやそうじができる
			56お金やものの無駄遣いをしない
			70腹が立ってもおさえることができる
		9 自然への関心	6花や風景などの美しいものに、感動できる
			20生き物をとても大切にす
			34草花の世話はまだ好きでない
			48季節の変化を感じることができる
			62自然の中でできごとに興味がある
		10 真面目 勤勉	12していいこと、してはいけないことの判断ができる
			26嫌がらずによく働く
			40きまりやルールを守ることができる
			54他人にはあまり親切でない
			68自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる
		11 思いやり	2人のために何かをしてあげるのが好きだ
			16相手の立場になって考えることができる
			30自分と違う意見や考えを受け入れることができる
			44他人の失敗を許すことができない
			58人の心の痛みがわかる
	身体的能力	12 日常的行動力	13部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである
			27からだを動かしても、疲れにくい
			41とても大きな声を出すことができる
			55早寝早起きである
			69食べ物の好き嫌が多い
		13 身体的耐性	4病気にかりやすい
			18少くらい血がでも平気である
			32暑さや寒さに負けない
			46長い距離を歩くことができる
			60とても痛い怪我をしても我慢できる
		14 野外生活・技能	10自分で食事が作れる
			24いろいろな動物や虫を、手で触ることができない
			38ナイフ・包丁などの刃物を上手に使える
			52暗い林の中の道を、ひとりで歩くことができる
			66洗濯機がなくても、手で洗濯できる

4 分析方法

本調査では、統計処理については、エクセル統計2010を使い、T検定（対応あり）を実施した。

【結果】

1 上位尺度

(1) 上位尺度・「生きる力」全体の得点の変容（図4）

上位尺度である「生きる力」について全体の得点の変容について比較をした結果を図4に示した。

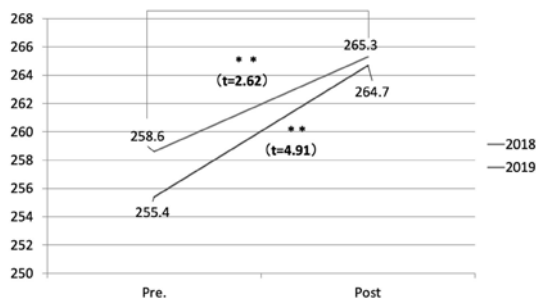


図4 2018、2019「生きる力」全体の得点の変容

分析の結果、2018年度、2019年度共に実習前後で比較すると0.1%水準で有意に増加していた。t値は2018年度:2.62、2019年度:4.91であり、「あてはまる」の方向へ変化していたことが分かった。

以上のことから、2018年度、2019年度の集中スキーは、「生きる力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 上位尺度・「生きる力」男女別の得点の変容（図5、図6）

上位尺度である「生きる力」の男女別の得点の変容について比較をした結果を図5(2018年度)、図6(2019年度)に示した。

分析の結果、2018年度について、男性と女性の「生きる力」の得点は実習前後で比較すると、共に0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性:3.31、女性:4.16であり、「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

2019年度について、男性と女性の「生きる力」の

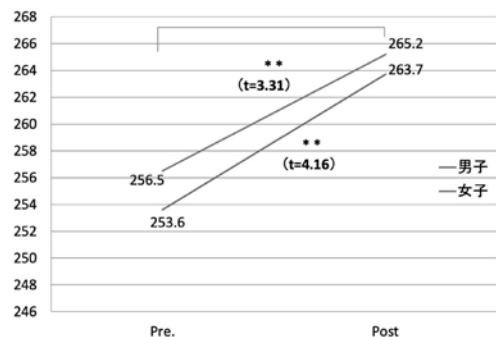


図5 2018「生きる力」得点の実習前後の比較（男女）

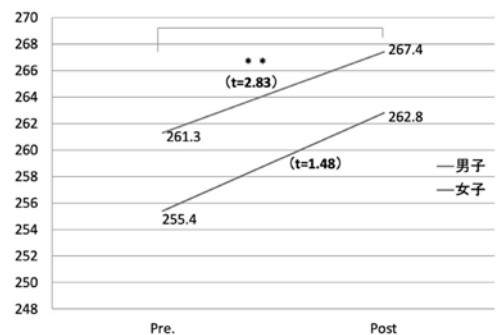


図6 2019「生きる力」得点の実習前後の比較（男女）

得点は実習前後で比較すると、男性が1%水準で有意に増加していた。t値は男性:2.83、女性:1.48であり、男性が「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2018年度は全体の結果同様男女共に、2019年度は男性が「生きる力」の統計的に有意な向上が認められた。

2 中位尺度

(1) 中位尺度・全体の得点の変容（図7、図8）

「生きる力」の中位尺度である「心理的社会的能力（下位尺度1～7）」、「徳育的能力（下位尺度8～11）」、「身体的能力（下位尺度12～14）」の3つの能力について全体の得点の変容について比較をした結果を図7(2018年度)、図8(2019年度)に示した。

分析の結果、「心理的社会的能力」の得点は、2018年度、2019年度共に1%水準で有意に増加していた。t値は2018年度:2.39、2019年度:2.81であり、「あてはまる」

	心理的・社会的能力	徳育的能力	身体的能力
Pre.	126.3	72.3	58.1
Post	92.5	75.0	59.2
T	23.9 **	3.34 **	1.95 **

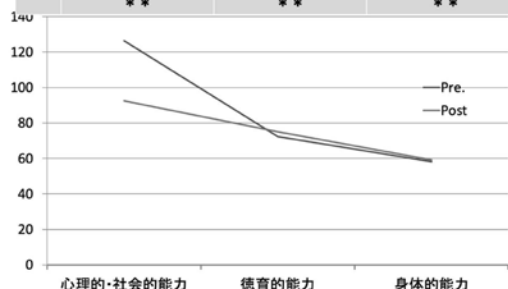


図7 2018「生きる力」を構成する各能力の実習前後の比較

	心理的・社会的能力	徳育的能力	身体的能力
Pre.	127.8	73.4	57.4
Post	131.3	75.5	58.5
T	2.81 **	1.87 *	1.38

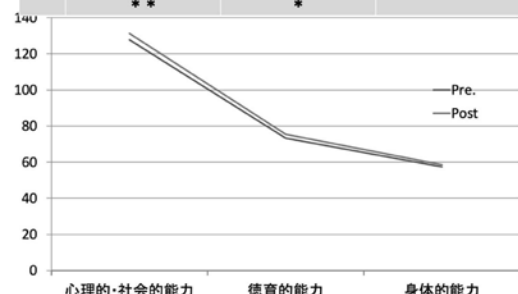


図8 2019「生きる力」を構成する各能力の実習前後の比較

の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2018年度、2019年度の集中スキーは、「心理的社会的能力」全体の統計的に有意な向上が認められた。

「徳育的能力」の得点は、2018年度は1%水準、2019年度は5%水準で共に有意に増加していた。t値は2018年度：3.34、2019年度：1.87であり、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2018年度、2019年度の集中スキーは、「徳育的能力」全体の統計的に有意な向上が認められた。

「身体的能力」の得点は、2018年度は1%水準で有意に増加していた。t値は2018年度：1.95、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2018年度の集中スキーは、「身体的能力」全体の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 中位尺度・心理的社会的能力・男女別(図9、図10)

中位尺度である「心理的社会的能力(下位尺度1～7)」男女別の得点の変容について比較した結果を図9(2018年度)、図10(2019年度)に示した。

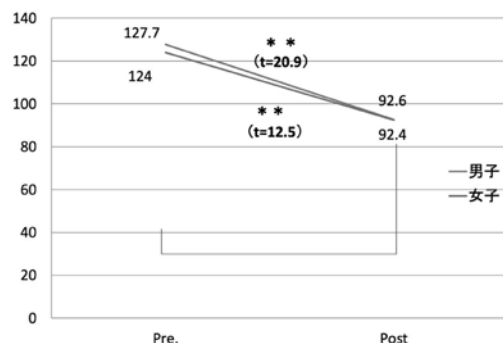


図9 2018 心理的社会的能力得点の実習前後の比較 (男女)

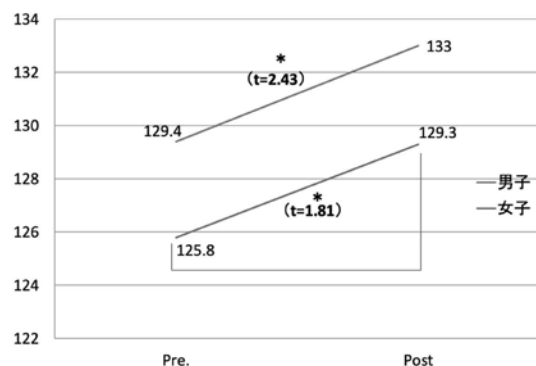


図10 2019 心理的社会的能力得点の実習前後の比較 (男女)

分析の結果、2018年度について、「心理的社会的能力」男女別の得点は、男性、女性共に1%水準で有意に減少していた。t値は男性：20.9、女性：12.5であり、「あてはまらない」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

2019年度について、「心理的社会的能力」男女別の得点は、男性、女性共に5%水準で有意に増加していた。t値は男性：2.43、女性：1.81であり、「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2018年度は男女共に「心理的社会的能力」の統計的に有意な減少が認められた。2019年度は男女共に、「心理的社会的能力」の統計的に有

意な向上が認められた。

(3) 中位尺度「徳育的能力」男女別 (図 11、図 12)

中位尺度である「徳育的能力 (下位尺度 8～11)」男女別の得点の変容について比較した結果を図 11 (2018 年度)、図 12 (2019 年度) に示した。

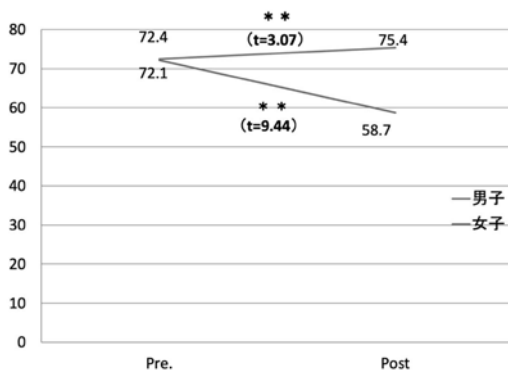


図 11 2018 徳育的能力得点の実習前後の比較 (男女)

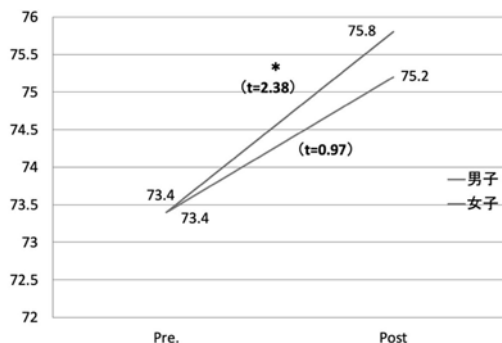


図 12 2019 徳育的能力得点の実習前後の比較 (男女)

分析の結果、2018 年度について、「徳育的能力」男女別の得点は、男性は 5 % 水準で有意に増加しており、女性は 5 % 水準で減少していた。t 値は男性:3.07、女性:9.44 であり、男性は「あてはまる」の方向へ有意に変化し、女性は「当てはまらない」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

2019 年度について、「徳育的能力」男女別の得点は、男性が 5 % 水準で有意に増加していた。t 値は男性:2.38、女性:0.97 であり、男性が「あてはまる」の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2018 年度については、「徳育的能力」について男性は有意な向上が認められたが、女性は有意に減少していた。2019 年度は、男性の「徳育的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

(4) 中位尺度「身体的能力」男女別 (図 13、図 14)

中位尺度である「身体的能力 (下位尺度 12～14)」男女別の得点の変容について比較した結果を図 13 (2018 年度)、図 14 (2019 年度) に示した。

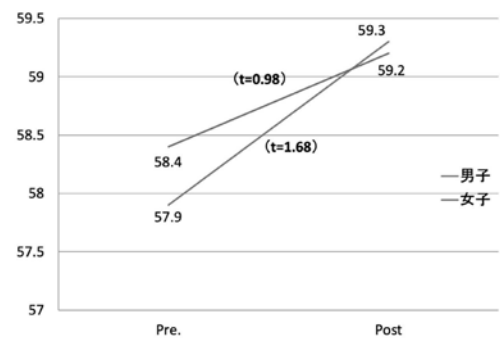


図 13 2018 身体的能力得点の実習前後の比較 (男女)

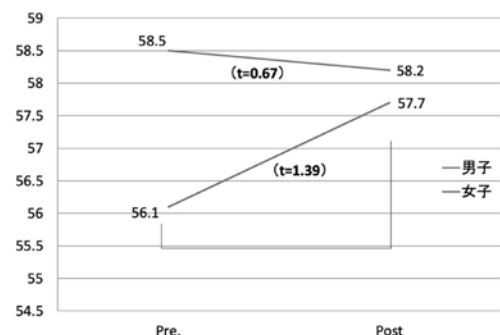


図 14 2019 身体的能力得点の実習前後の比較 (男女)

分析の結果、2018 年度について、「身体的能力」男女別の得点は、男女共に増加していたものの有意差はなかった。2019 年度について、「身体的能力」男女別の得点は、有意差はなかった。

以上のことから、2018 年度、2109 年度ともに「身体的能力」男女別の得点は、有意差はなかった。

3 下位尺度

(1) 下位尺度・全体 (図 15、図 16)

「生きる力」下位尺度の指標である各指標について全体の得点の変容について比較した結果を図 15 (2018 年度)、図 16 (2019 年度) に示した。

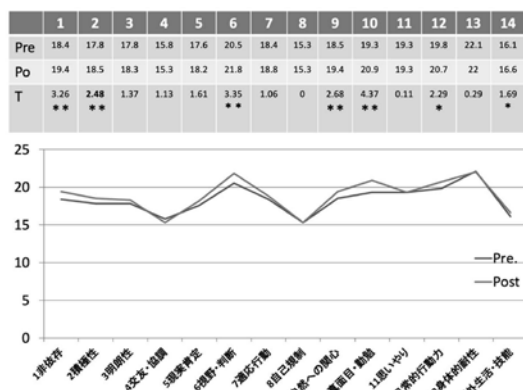


図 15 2018「生きる力」各指標の実習前後の比較

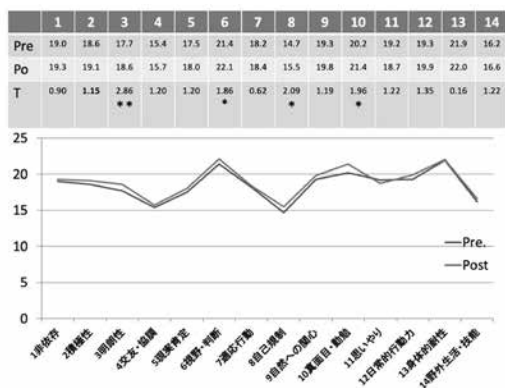


図 16 2019「生きる力」各指標の実習前後の比較

分析の結果、2018 年度 (図 15) について全体では、非依存 (1%水準 $t=3.26$)、積極性 (1%水準 $t=2.48$)、視野・判断 (1%水準 $t=3.35$)、自然への関心 (1%水準 $t=2.68$)、真面目・勤勉 (1%水準 $t=4.37$)、日常的行動力 (5%水準 $t=2.29$)、野外生活・技能 (5%水準 $t=1.69$) の得点が増加しており、「あてはまる」の方向に変化していたことがわかった。

以上のことから、2018 年度は全体の非依存、積極

性、視野・判断、自然への関心、真面目・勤勉、日常的行動力、野外生活・技能の下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。2019 年度 (図 16) について全体では、明朗性 (1%水準 $t=2.86$)、視野・判断 (5%水準 $t=1.86$)、自己規制 (5%水準 $t=2.09$)、真面目・勤勉 (5%水準 $t=1.96$)、の得点が増加しており、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

以上のことから、2019 年度は全体の明朗性、視野・判断、自己規制、真面目・勤勉の下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 下位尺度・男女別男性 (図 17、図 18)

下位尺度の各指標男性の得点の変容について比較した結果を図 17 (2018 年度)、図 18 (2019 年度) に示した。

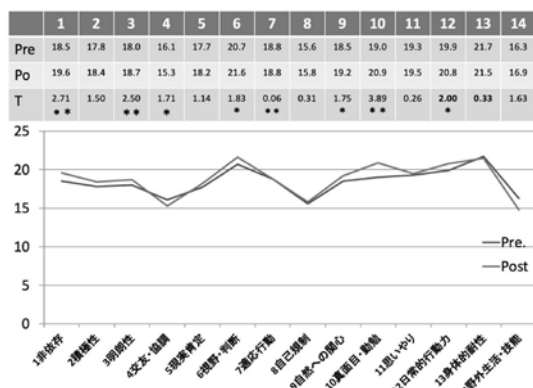


図 17 2018「生きる力」各指標の実習前後の比較 (男性)

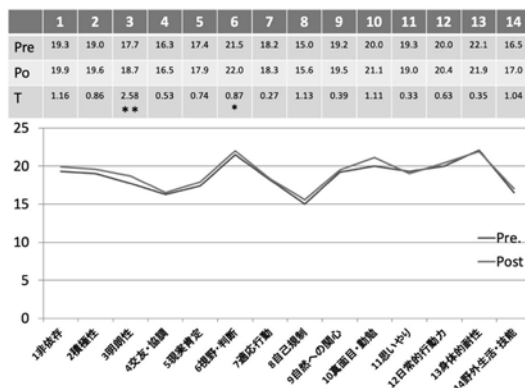


図 18 2019「生きる力」各指標の実習前後の比較 (男性)

分析の結果、2018 年度（図 17）について男性では、非依存（1 %水準 $t=2.71$ ）、明朗性（1 %水準 $t=2.50$ ）、交友・協調（5 %水準 $t=1.71$ ）、視野・判断（5 %水準 $t=1.83$ ）、適応行動（1 %水準 $t=0.06$ ）、自然への関心（5 %水準 $t=1.75$ ）、真面目・勤勉（1 %水準 $t=3.89$ ）、日常的行動力（5 %水準 $t=2.00$ ）、の得点が増加しており、「あてはまる」

以上のことから 2018 年度は、男性の非依存、明朗性、交友・協調、視野・判断、適応行動、自然への関心、真面目・勤勉、日常的行動力の統計的に有意な向上が認められた。2019 年度（図 18）について男性では、明朗性（1 %水準 $t=2.58$ ）、視野・判断（5 %水準 $t=0.87$ ）の得点が増加しており、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

以上のことから、2019 年度は男性の明朗性、視野・判断の統計的に有意な向上が認められた。

（3）下位尺度・男女別女性（図 19、図 20）

分析の結果、2018 年度（図 19）について女性では、非依存（5 %水準 $t=1.78$ ）、積極性（5 %水準 $t=2.14$ ）、視野・判断（1 %水準 $t=3.36$ ）、自然への関心（5 %水準 $t=2.07$ ）、真面目・勤勉（5 %水準 $t=2.04$ ）の得点が増加しており、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

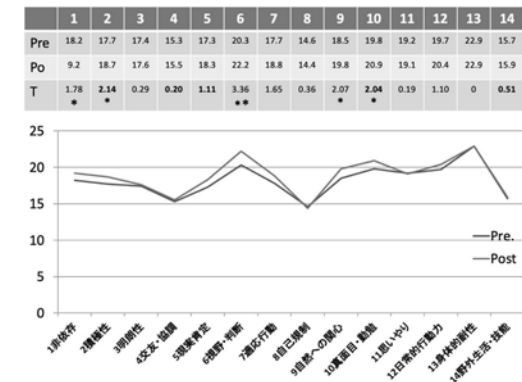


図 19 2018「生きる力」各指標の実習前後の比較（女性）

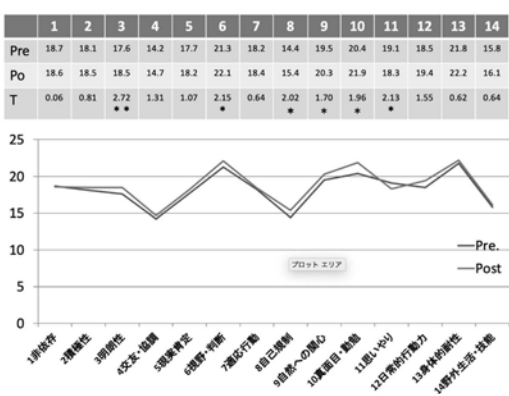


図 20 2019「生きる力」各指標の実習前後の比較（女性）

以上のことから 2018 年度は、女性の非依存、積極性、視野・判断、自然への関心、真面目・勤勉の統計的に有意な向上が認められた。

2019 年度（図 20）について女性では、明朗性（1 %水準 $t=2.72$ ）、視野・判断（5 %水準 $t=2.15$ ）、自己規制（5 %水準 $t=2.02$ ）、自然への関心（5 %水準 $t=1.70$ ）、真面目・勤勉（5 %水準 $t=1.96$ ）、思いやり（5 %水準 $t=2.13$ ）の得点が増加しており、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

以上のことから、2019 年度は女性の明朗性、視野・判断、自己規制、自然への関心、真面目・勤勉、思いやりの統計的に有意な向上が認められた。

【まとめ】

本学では、冬季休暇中に集中スキーを開講しており、2018 年度、2019 年度受講生を対象に IKR 調査を実施し、授業を通しての野外での体験が受講生達に与える影響を調査し、以下のようなことがわかった。

1（1）上位尺度「生きる力」全体について

2018 年度、2019 年度の集中スキーは、「生きる力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

（2）上位尺度「生きる力」男女別について

2018 年度は全体の結果同様男女共に、2019 年度は男性が「生きる力」の統計的に有意な向上が認められた。

2 (1) 中位尺度全体について

2018年度、2019年度の集中スキーは、「心理的社会的能力」、「徳育的能力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。また、2018年度は、「身体的能力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 中位尺度男女別について

1) 「心理的社会的能力」男女別について、2018年度は男女共に統計的に有意な減少が認められた。また、2019年度は男女共に、「心理的社会的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

2) 「徳育的能力」男女別について

2018年度は、「徳育的能力」について男性は有意な向上が認められたが、女性は有意に減少していた。また、2019年度は、男性の統計的に有意な向上が認められた。

3) 「身体的能力」男女別について

2018年度、2109年度ともに「身体的能力」男女別の得点は、有意差はなかった。

3 (1) 下位尺度全体について

2018年度は全体の非依存、積極性、視野・判断、自然への関心、真面目・勤勉、日常的行動力、野外生活・技能の下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。また、2019年度は全体の明朗性、視野・判断、自己規制、真面目・勤勉の下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 下位尺度男女別について

1) 下位尺度男女別男性について

2018年度は、男性の非依存、明朗性、交友・協調、視野・判断、適応行動、自然への関心、真面目・勤勉、日常的行動力の統計的に有意な向上が認められた。また、2019年度は男性の明朗性、視野・判断の統計的に有意な向上が認められた。

2) 下位尺度男女別女性について

2018年度は、女性の非依存、積極性、視野・判断、自然への関心、真面目・勤勉の統計的に有意な向上が認められた。また、2019年度は女性の明朗性、視野・判断、自己規制、自然への関心、真面目・勤勉、思いやりの統計的に有意な向上が認められた。

【参考文献】

桂豊ら(2012)集中授業の「生きる力」の変化について - 2011 集中スキー IKR 調査より - 平成 25 年度甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (19) P.25 ~ 34

桂豊ら(2014)集中授業の「生きる力」の変化について II- 2013-14 集中スキー IKR 調査より - 平成 27 年度甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (20) P.19 ~ 29

桂豊ら(2016)集中授業の「生きる力」の変化について III- 2014-15, 2015-16 集中スキー IKR 調査報告 - 平成 29 年度甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (21) P.45 ~ 55

桂豊ら(2018)集中授業の「生きる力」の変化について IV - 2016-17, 2017-18 集中スキー IKR 調査報告 - 平成 31 年度甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (22) P.21 ~ 31